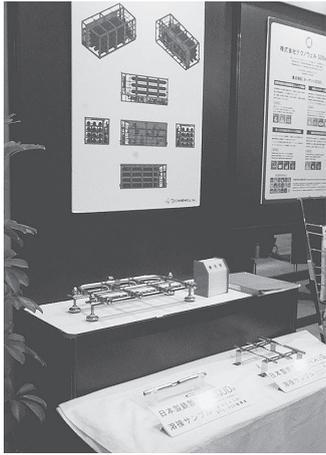


千葉で水素産業展示会開催

山口鉄鋼関連4社が出展

千葉市の幕張メッセで4日まで開催された「H2&FC&EXPO」



テクノウェルのブース④、富士高圧フレキシブルホースが展示した加工品

（国際水素・燃料電池展）は、山口県内に拠点を置く鉄鋼関連4社などが「山口県、パビリオン」として出展した。水素社会に貢献するステンレス鋼や非鉄金属、その他素材などを展示した。

山口県は、自治体や立地企業が「水素先進県」の実現に向けて取り組んでいる。このパビリオンは、県内の中小企業を支援する、やまぐち産業振興財団（山口市）が主体となり、エンジンアリングを手掛けるテクノウェル（本社〓光市、伊ヶ崎哲成社長）、ホース・配管機器製造の富士高圧フレキシブルホース（本社〓光市、藤井康司社長）、ワイヤ製造のジャパンファインスチール（本社〓山陽小野

田市、陣田尚社長）、ステンレス、高合金流通のイノウエ（本社〓東京都千代田区、井上浩樹社長）の下松営業所（下松市）が共同出展した。

テクノウェルは、プラント設備の設計から施工まで手掛ける。ブースでは日本製鉄の高圧水素用ステンレス鋼「HRX19」と液化水素用ステンレス鋼「HYDLIQUID（ハイドリキッド）」の溶接加工例などを展示し、水素設備の設計・加工提案をアピールした。

富士高圧フレキシブルホースは、油圧機器向けなどで培った技術やノウハウを基にした、水素環境向けステンレス鋼管の加工を紹介。HRX19の溶接やU字曲げ加工サンプル

などを展示した。

ジャパンファインスチールは、鉄や非鉄の多彩な極細ソーワイヤの実物を展示。同社は線径0.05㎜・長さ20万㎝以上の極細・長尺に対応できる。水素分野の具体的な採用例として、液化水素を正確に計測する「レベルセンサー」で採用されている点を、実物で紹介した。

イノウエの下松営業

所は、極低温環境で採用が期待される断熱材「スーパーインシュレーション」を展示。同社は2009年から、欧州メーカーのビヨンドグラビティ社（BGA、オーストリア）のスーパーインシュレーションで国内代理店を務めている。すでにMRIなどで採用実績がある。液化水素のタンク・配管など極低温環境での採用が見込まれる。

ブースに立ったイノウエの井上社長は「下松市に拠点を置いて、今年で5年を迎えた。地域に根を下ろすことをさらに進めていきたい。水素社会実現に向けて、県としてバックアップをしている山口県の存在感は大きい。4社それぞれが持つ強みを生かして、水素分野でも素材を通してモノづくりに貢献していきたい」と話す。



ジャパンファインスチールの製品①、イノウエが展示したスーパーインシュレーション

